

[A類家庭コース, B類家庭コース 対象]

小論文 解答例

令和6年度
一般選抜前期
私費外国人
帰国生

I 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

私は中学生や高校生に向けて、「家庭料理の意味」について講演をすることがあります。このくらいの年齢の間に、家庭料理の意味を学ぶ機会が必要だと思えます。大人がこんなこと当たり前だろうと思っていることも、案外子どもたちには伝わっていないもの。彼らは「家でご飯を食べられることに感謝したい」「親の気持ちがはじめてわかった」と言うのです。

講演の後には感想文をいただくのですが、その中に、一人の生徒が「家庭料理がない家だってあります」と書いたものがありました。そこで、学校の事情を校長先生に聞きました。「朝ご飯食べてきましたか」って聞くと、全員が「はい」と、手をあげるそうです。

でも、食べていない生徒が何人もいることはわかるそうです。子供たちは、手をあげて、面倒なことになるのを避けるのだそうです。家にご飯がないというのは、貧困の問題だけではありません。裕福な家でも、ない子はないのです。

それを聞いてから、ご飯が家がないことを前提に「ご飯は自分で作るもの」と話します。

小学校の3年生に「ご飯の炊き方」と「味噌汁の作り方」を教えれば自分で作れます。自分で作れば、同じ境遇の友達に声をかけて一緒に食べられるでしょう。小学3年生でも友達をシェアせにできるのが、料理のすごさです。その程度のことに調理場はいりません。カセットコンロと鍋が1つと炊飯器があれば、十分です。自分で作って自分で食べれば、そこに居場所が生まれます。料理するところには、新しい家族だって生まれます。(中略)

毎日同じように味噌汁を作っても、毎日違う。一椀の中という有限の世界に無限の変化があるのです。「有限の無限」であるから楽しめるのです。

それぞれの家も同じではありません。日本の食文化という有限の枠組みの中で、それぞれに無限に違っているのです。同じなんておもしろくないでしょう。毎日違うからおもしろいのです。有限であるから、変化に気づいておもしろがれるのです。(中略) 家庭料理は家族の分だけ少量作るものです。身の回りにある食材に必要な以上の手をかけず、さっと作るのが、日常の和食です。それは自然の移ろいに対応するので、いつも変化するものです。同じでない不均質なところに、和食の意味があります。(中略) 私たちはとりたてて変わったものを食べたいのではありません。とにかく安心するものが食べたいのです。

『くらしのための料理学』(土井善晴, 2021)

問1 料理研究者である土井氏の文章を踏まえ、あなたが「家庭料理の意味」について考えたことを述べよ。

問2 食生活に関する事柄を家庭科で学ぶ意義について、あなたの考えを説明せよ。

(出題意図)

- ・日常生活における「家庭料理」について、提示文を通して自らの考え方を説明することができる力を見る。
- ・家庭科教育における食生活の学習について、具体的な内容を想起し、その学習意義について考え、表現することができる力を見る。

(採点のポイント)

<設問1>

- ・「家庭料理の意味」について、提示文の内容を踏まえた解釈をもとに論述表現ができているか。
- ・「家庭料理」の特徴について具体的に記述されているか。

<設問2>

- ・家庭科教育における食生活に関する学習内容が具体的に想起され、記述されているか。
- ・食生活に関する事項を学ぶことについて、「意義」の観点から論述されているか。

[A類家庭コース, B類家庭コース 対象]

小論文 解答例

令和6年度
一般選抜前期
私費外国人
帰国生

Ⅱ 以下の図は、防災に関する世論調査において、「あなたは、自然災害が起こった時に、被害を少なくするために『自助』、『共助』、『公助』のどれに重点をおくべきと考えていますか」、という問いに対する回答結果である。図から分かることと、その背景として考えられることを挙げた上で、家庭科教育においてどのような学習が必要だと思うか、あなたの考えを述べよ。

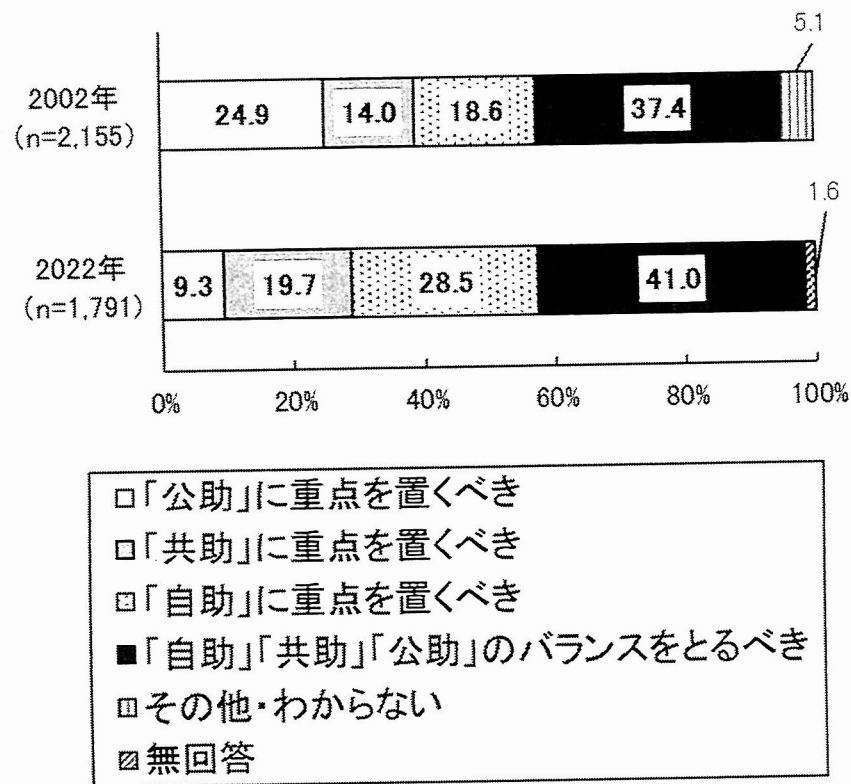


図 重点を置くべき防災対策

(内閣府「防災に関する世論調査」平成14(2002)年度および令和4(2022)年度調査結果をもとに作成)

(出題意図) 「防災に関する世論調査」の結果の図を読み取り、家庭科における防災学習のあり方について考える問題である。

(採点のポイント) 防災における「自助」「公助」「共助」の意味や必要性を理解し、家庭科における防災学習のあり方を論理的に論述しているか。